



令和4年4月11日

担当課	文化振興課 博物館
担当者	前田
電話	073-423-0003
内線	

## とうじきるい 紀州徳川家ゆかりの陶磁器類の寄贈について

### － 4月13日に寄贈品の受入式を行います－

このたび、和歌山ロータリークラブ様から創立85周年記念事業として、紀州徳川家ゆかりの陶磁器類を寄贈いただくことになりました。紀州徳川家10代藩主・徳川治宝とくがわはるとみと11代藩主・徳川斉順とくがわなりゆきに関する陶磁器類です。

つきましては、次のとおり、寄贈品の受入式を行います。

- 1 寄贈者 和歌山ロータリークラブ 様
- 2 寄贈品 紀州徳川家ゆかりの陶磁器類 7件12点 (別添参照)
- 3 開催日時 令和4年4月13日(水) 午後2時から
- 4 開催場所 和歌山市役所 4階 市長室
- 5 出席者 和歌山ロータリークラブ  
 ちねん あきお 知念 章雄 様 (和歌山ロータリークラブ会長)  
 もりした まさき 森下 正紀 様 (和歌山ロータリークラブ創立85周年実行特別委員会委員長)  
 ひろい ひろみち 廣井 久道 様 (和歌山ロータリークラブ幹事)  
 かわさき さとる 川崎 悟 様 (和歌山ロータリークラブ理事)  
 なかむら えいぞう 中村 榮三 様 (和歌山ロータリークラブ理事)

和歌山市長 尾花正啓

#### 6 紀州徳川家ゆかりの陶磁器類について

10代藩主徳川治宝は、文化・芸術に秀でた藩主であり、19世紀に徳川家の別邸西浜御殿べっぺいでいにしはまごにおいて偕楽園焼かいらくえんやきを行いました。そのような作陶趣味をもつ藩主のもと、紀州藩の援助により殖産興業を目的に市内高松なんき たかまつやきに南紀高松焼、現在の広川町なんき おとこやまやきに南紀男山焼が開かれ、民間の窯である瑞芝窯ずいしがまでは、藩主からの贈答品用として極めて優れた瑞芝焼ずいしやきが生産されました。また、11代藩主徳川斉順も作陶趣味があり、和歌山城や湊御殿せいのけいんやきで清寧軒焼を行っていました。

今回ご寄贈いただくのは、徳川治宝はるとみに関係し西浜御殿で焼かれたり、絵付けされたりした偕楽園焼関係が2点、治宝の別邸・養翠園内の養翠亭で使用された養翠亭焼1点、徳川斉順はるとみに関する清寧軒焼1点のほか南紀高松焼2点、瑞芝焼の精巧な文房具類が6点です。

#### 7 展示予定

本資料は、テーマに合わせて常設展で展示するほか、令和5年3月11日(土)から同年5月14日(日)まで開催予定の「新収蔵品展」で展示を行う予定です。

番号	資料名	点数	写真	備考
1	かいらくえんやき すずめこうごう 偕楽園焼 雀香合	1点		偕楽園焼は、現在の和歌山工業高校付近にあった10代藩主徳川治宝の別邸であった西浜御殿で焼かれたもの。香合は茶道のときに香を入れるのに使用。
2	かいらくえんがせい なんきおとこやまやきさかずき 偕楽園画製 南紀男山焼盃	1点		南紀男山焼は紀州藩により、江戸時代に広川町で焼かれた焼物。絵は和歌山市内の西浜御殿（10代藩主徳川治宝の別邸。偕楽園焼）で描かれた。
3	せいねいけんやき あからくちやわん 清寧軒焼 赤楽茶碗	1点		清寧軒焼は、19世紀に11代藩主の徳川斉順がおこなった御庭焼で、和歌山城や湊御殿で焼かれた焼物。
4	ようすいていやき そめつけろっかくひいれ 養翠亭焼 染付六角火入	1口		養翠亭焼は、徳川治宝の別邸・養翠園内の養翠亭で使用された器。底面に「養翠亭物」と銘がある。製品の数は少ない。
5	なんきたかまつやき そめつけみずさし 南紀高松焼 染付水指	1点		南紀高松焼は、和歌山市東高松に開かれた紀州藩の窯で、白地に青の絵（山水図）が描かれる。本作は、高松焼の代表作の一つ。
6	なんきたかまつやき つつはないけ 南紀高松焼 筒花生	1点		和歌山市東高松で開かれた窯で、白地に青の絵（中国の伝説の桃源郷）が描かれる。筒のように長い花生。
7	ずいしやき せいじぶんぼうぐ 瑞芝焼 青磁文房具	6点		瑞芝焼は、和歌山市内で焼かれた緑色の青磁釉の焼物。精巧につくられた文房具のミニチュア品。